

 評価のポイント

CL- I .ニーズを捉える力（精神科）

[6-1] 事例 バイオサイコソーシャルモデルとストレングスモデルを活用したアセスメントと支援

①自分のストレングスについて書き出してみよう（話し合ってみよう）。その時、どんな風に聞いてもらえると嬉しいか、どうしてほしかったかについても出してみよう。

②その時、どのくらい書きやすかったか、すぐ出てきたか、たくさんあったかといった自分の中での感覚を大切に振り返ってみよう。グループで話しあう場合は、ストレングスを促進するような声掛けはどのようなものなのか、意識しながらやってみよう。また話し手はどんな風に聞いてもらえると嬉しいか、どうしてほしかったかについても振り返り、互いにシェアしてみよう。

自分のストレングスは何なのか、一度考えてみることは、患者のストレングスを支援する際にも役立つことだと思います。

まずは言語化する難しさから体験して、出せなかったら（言語化できなかったら）その難しさから他者への視点やケアに活かしていけるよう声掛けをしていただけたらと願っています

その点で①の課題はどのようなカバーであっても、②の課題は言語化しはじめることでの学びへとつながるものと思います。そのため解答はありません。

また、2人1組でロールプレイをするのもコミュニケーションのトレーニングにもなってよいと思います。どのように聞いてもらえると話しやすいのか、どこが難しいのか、どうしたら引き出せるのかいろいろ工夫して練習してみるもの良いと思います。できれば多くのグループでシェアすることで、コツをつかんでいけることと思います